

石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ <https://www.senshu-u.ac.jp/isshinomaki/>

石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)



2019 石巻祭
10.12(土)
13(日)
テーマ「結」

リボーンアート・フェスティバル

経営 地域の魅力発信 庄子ゼミ



在学生にRAFを紹介した=7月19日



深澤さんの作品作りに協力する庄子ゼミ生=7月19日

高大産連携プロジェクト

宮城県の牡鹿半島や石巻市街地を舞台に、現在開催中のアート、音楽、食を楽しむ「リボーンアート・フェスティバル」(RAF)に経営学部Reborn Art Festival、宮城県石巻高校との高大産連携プロジェクト「リボーンアートプロジェクト」がテーマの庄子ゼミは昨年一般社団法人Reborn Art Festival、宮城県石巻高校との高大産連携プロジェクト「リボーンアートプロジェクト」を推進し、イベントの認知度向上などに取り組んできた。熊坂和希さん(経営3・福島県保原高)は「石巻の豊かな自然が感じられ、おいしい食べ物にも出合うことができるイベント。『百聞は一見に如かず』。会場に足を運んでほしい」と来場を呼びかける。「昨年実施した学内調

査であり認知されていないことが分かり、関心を持ってほしかった」と、開幕前の7月19日には経営学部の2〜4年生約140人に向けたプレゼンを行った。RAF実行委員会の松村豪太事務局長も参加し、イベントの魅力を伝えた。また、ゼミ生たちは会場の一つである「もものうらビレッジ」に3月かから何度も足を運び、現代美術家・パルココシタさん、美術家・深澤孝史さんの作品作りにも関わった。

石巻専修大学では、両日を地域貢献日に設定。孫兵衛船競漕、縄張神社奉納大綱引き大会、流燈、大漁踊り、花火のゴミ拾いに学生、教職員延べ590人が参加し、地域の方々と触れ合いながら、イベントを盛り上げる。

石巻川開き祭り

石巻市の夏を彩る「第96回石巻川開き祭り」(7月31日、8月1日)が中心市街地で行われた。

学生らが盛り上げる

孫兵衛船競漕に出場。「10人の漕ぎ手が息を合わせるの難しいが、年々うまくできるようになってきた。来年も参加し、予選を突破したい」と話した。



そろいの浴衣で踊る学生たち(大漁踊り)

女子バスケットボール愛好会のメンバーと一緒に大漁踊りに参加した石田優希菜さん(経営1・福島県いわき光洋高)は「多くの人が沿道で見学していて緊張したが、最後まで楽しく踊ることができた」と笑顔を見せた。浦瀧悟さん(人間1・宮城県仙台台東高)は「川開き祭りに初めて参加したが、とても面白かった。来年は大漁踊りに参加したい」と話した。このほか、学生会が模擬店を出店し、ダンス愛好会がステージでパフォーマンスを披露した。

自然体験合宿に参加 子どもたちサポート

人間教育学科の2学生

宮城県内の小・中学生30人が参加した自然体験合宿「サマー・チャレンジin南三陸」(8月5

〜11日、宮城県津川自然の家など)に、小学校教員を目指す人間学部人間教育学科2年次の鎌田健吾さん(宮城県利府高)と前田琳太郎さん(宮城県東陵高)が活動補助員として参加し、子どもたちの夏の思い出作

りをサポートした。2人は橋島での無人島探検やキャンプなど南三陸町の自然を生かしたアウトドア体験、いかだ作りをはじめとした工作に取り組み子どもたちの活動を支援した。

鎌田さんは「屋外での活動が多く、天候によってスケジュールが変わるため、臨機応変な対応が求められた。大変だったが、楽しみながら多くのことを学ぶことができた。最後に子どもたちから感謝のメッセージをもらった時は感極まった。理想の教師を目指し、今後もこのような活動に参加したい」と話した。

前田さんは「子どもたちの接し方に悩んだ7日間だった。必要な場面で、注意することができなかつたことが反省として心に残っている。今回の経験を忘れず、教員に必要な知識やスキルを学んでいきたい」と話した。

ソフト用いた設計学ぶ

三次元CAD利用技術者試験対策講座

進路支援係が実施する。三次元CAD利用技術者試験対策講座が9月2日から4日まで、5号館のコンピュータ室で開講された。資格取得を目指す理工学部と経営学部の1〜4年生7人が受講。高橋智理工学部准教授の指導で、三次元CADソフト「SolidWorks」を用いた設計やモデリングの手法を学ん

だ。「初めて触れたソフトだったが、実技を交えた講座で分かりやすかった」と話した。就職活動に向けて資格取得を目指す学生もいる。新井匠さん(経営4・宮城県仙台城南高)は「1級を目指しており、12月の試験に向けて、今後も学びを深めていく。」

柴田陽平さん(理工1・山形県山形工業高)は「2級に合格できるように頑張りたい」と話した。



三次元CADの特徴を学ぶ学生

だ。

「初めて触れたソフトだったが、実技を交えた講座で分かりやすかった」と話した。就職活動に向けて資格取得を目指す学生もいる。新井匠さん(経営4・宮城県仙台城南高)は「1級を目指しており、12月の試験に向けて、今後も学びを深めていく。」

柴田陽平さん(理工1・山形県山形工業高)は「2級に合格できるように頑張りたい」と話した。



工作を手伝う鎌田さん(左から2人目)



いかだで海に出る前田さん(中央)と子どもたち

学生スマホアプリコンテスト 経営・舛井ゼミ 2年連続奨励賞



最終審査で機能を説明する千葉さん

アプリケーショ開発やWEBサイト制作に取り組む経営学部・舛井道晴ゼミが第7回学生スマホアプリコンテスト(情報処理学会・CDS/MBL研究会主催)に出場。8月29日、葉山港管理事務所(神奈川県葉山町)で行われた最終審査でプレゼンテーションを行い、2年連続で奨励賞に選ばれた。アプリを制作したのは千葉奈々香さん(3年次)・岩手県黒沢尻北高、三浦聖也さん(3年次)・宮城県石巻北高、早坂

勝輝さん(3年次)・宮城県石巻商業高)の3人。「一年をこらへど時間がたつのが早く感じられる」という現象を数式化した「ジャンネの法則」を取り入れ、予定日に向けた体感日数を表示するスケジュール管理アプリ「Destination, time」を開発した。

アイデアは千葉さんが自身の体験からひらめいた。「今回のコンテストで、自分の発想や着眼点に自信を持てるようになった。入賞チームとの違いは『アプリで実践する力』。今後のゼミ活動でスキルアップしていきたい」と話した。